

YPS2018のご案内（2号通信）

Young Perceptionists' Seminar（YPS）は、1972年に名古屋大学の学生を中心に発足した、若手知覚研究者の情報交換・討論・交流を目的とする合宿形式の研究会です。第46回となる今年は大阪大学が運営を担当することになりました。

自称“Young”で、感覚、知覚、認知などの諸領域に興味をお持ちの方なら誰でも気軽に参加・発表することができます。例年通り、通常の研究発表に加え、構想段階の研究の発表や研究のアイデアのみの発表（妄想発表）も歓迎いたします。

今回は大阪の日本橋にてYPSを開催いたします。研究会を通じた情報・意見交換とともに、「ミナミ」と呼ばれる大阪のディープなエリアをお楽しみいただければと思います。学部生の方から有職の方まで、皆さまのご参加をお待ちしております。

YPS2018 概要

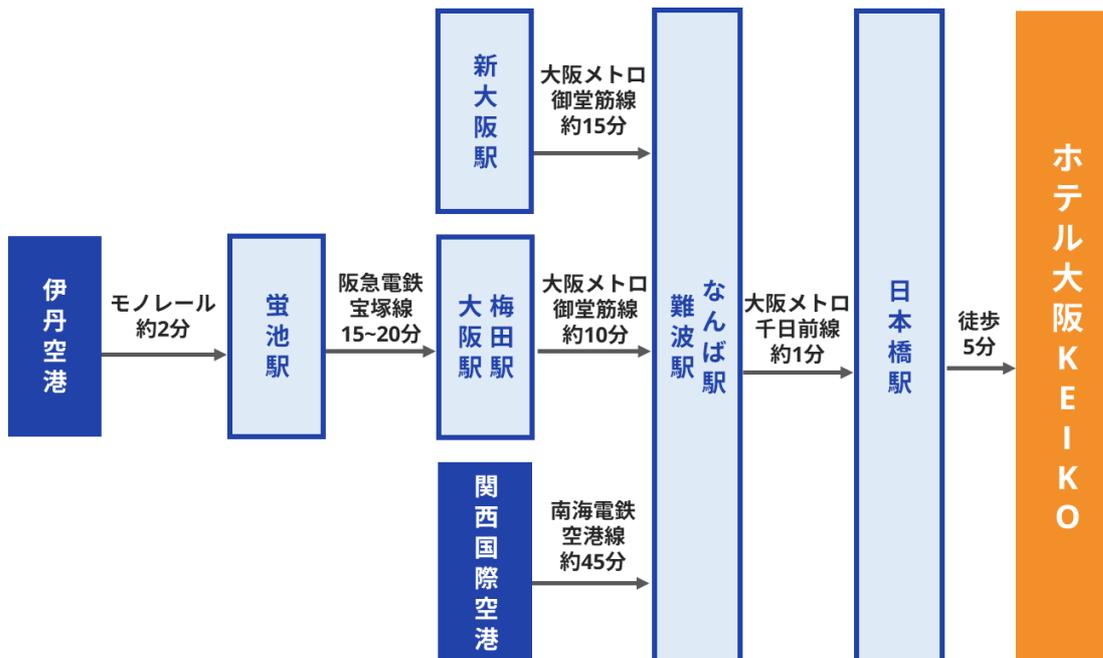
1. 日時

9月17日（月）～19日（水）

2. 場所

ホテル大阪 KEIKO（大阪府大阪市中央区高津 2-3-6）URL: <http://hotel-osaka-keiko.com/>

大阪メトロ・近鉄日本橋駅より徒歩5分です。アクセスは以下の図を参考にしてください。



3. 参加・発表申し込み

4月24日（火）より開始

締め切り：参加申し込み・発表申し込みともに7月2日（月）

登録は以下のフォームよりお願いいたします。

<http://kiso.hus.osaka-u.ac.jp/yps/2018/registration.html>

4. 参加費（予定）

学生 20,000 円 有職者 30,000 円（食事代・宿泊費込）

※参加人数により変動の可能性があります

※学振 DC・PD は有職者として扱います

5. 特別講演

佐藤隆夫先生（立命館大学 教授）

「『もの』を見る」

我々は、ごたごたしたシーンの中から、自分の見たい物を即座に拾い出し、認識することができます。こうしたことが出来るのは、視覚系が、基本的に「もの」を見ることにチューンされているからです。こうした考えは、視覚研究の様々な側面の基本となるものであり、僕の最近の基本的なテーマとなっています。さらに、こうした考えは、ゲシュタルト法則や、マーの制約条件に基づいた視覚理論のもとにもなっていると考えています。今回の講演では、こうした物を見るしくみの一端をいくつかの面白い実例を交えてご紹介するとともに、僕が、行って来た具体的な研究をいくつか紹介し、そうした研究に関して参加者の皆さんと議論したいと思います。

森川和則先生（大阪大学 教授）

「知覚心理学も役に立つ！：錯視研究の実用的応用と産学連携の可能性について」

人間の目に見える「現実」はすべて脳が網膜からの入力进行分析し解釈し推測した結果であるが、その推測（主観的現実）と物理的現実との間にはしばしばズレがある。そのズレが「錯視」と呼ばれる。知覚心理学における錯視研究は百数十年の長い歴史があり、主に幾何学的図形の見え方のズレの研究が行なわれてきた。近年まで錯視研究は精緻ではあるが日常生活、社会、実用性とは無縁の基礎研究がほとんどであった。しかし、最近、心理物理学的測定法を応用して化粧の錯視効果を定量的に測定できることを筆者らは実証してきた。錯視の日常生活への応用、特に化粧や服装における錯視の活用の研究が社会から注目されている。さらに、このような研究は企業との共同研究にもつながる。知覚心理学の未来を担う若手の皆さんに向けて、上記の観点から学問の意義について再考し、社会のニーズに答え得る現実性のある知覚心理学の可能性について論じてみたい。

※この概要文は394字（サクシ）でした。

準備委員会	準備委員長	小林 勇輝（大阪大学大学院人間科学研究科／日本学術振興会）
	アドバイザー	富田 瑛智（大阪大学大学院人間科学研究科）
	広報・Web 担当	武藤 拓之（大阪大学大学院人間科学研究科／日本学術振興会）
	助成金申請担当	余根田 耕（大阪大学大学院人間科学研究科）
	会計担当	篠原 恵（大阪大学大学院人間科学研究科）
	会計担当	小川 勇也（大阪大学大学院人間科学研究科）
	会計担当	八木 佑都（大阪大学大学院人間科学研究科）

Web : <http://kiso.hus.osaka-u.ac.jp/yps/2018/>

お問い合わせ先 : YPS2018 準備委員会 yps2018osaka[at]gmail.com